

伊豆市監査委員 告示第2号

地方自治法第199条第4項の規定に基づき定期監査を実施したので、同条第9項の規定により、監査の結果を次のとおり公表する。

令和3年2月22日

伊豆市監査委員 渡邊 光由
伊豆市監査委員 青木 靖



記

1. 監査の期日 令和3年1月15日(金)
2. 監査の対象 教育部 学校教育課、社会教育課
3. 監査の方法
提出を求めた監査資料等に基づき、各担当課の説明を受けた後、事情聴取及び関係書類の審査を行った。
4. 監査の結果
監査を実施した範囲においては、関係法令等に準拠して執行されており、おおむね適正に処理されているものと認めた。

5. 監査の概要、意見

対象部課の監査結果の概要及び意見は、次のとおりである。

教育部

(1) 学校教育課

- ① 放課後児童クラブは、市内8か所の施設で運営されている。今年度は、コロナ禍で密にならないように、また常に換気をしながらの運営のため、指導員に負担がかかっている。修善寺南小学校のこひつじ園は、希望者が多く、昨年あゆのさとこども園内に第2放課後児童クラブ「あゆっこ」を開設し、対応していただいている。天城放課後児童クラブについては、児童数は減っているが、放課後児童クラブへの入所希望者は増えており、スペース的な対応に苦慮している。夏休み等在籍数は、コロナ禍により休みが短くなっていることや、父母が自宅待機やテレワーク等で自宅にいることが多かったことなどで、例年よりも利用者が少なくなっている。中伊豆地区の利用数が年々減っていると説明を受けたが、

利用阻害要素がないか、原因を調べていただきたい。また委託先がそれぞれ違うため、クラブによる差が起きぬよう、定期的な情報交換を行うなど引き続き対処願います。

- ② 就学援助費の認定状況については、次のとおりの認定人数を確認した。就学者全体の7%が認定を受けている状況である。 (単位:人)

学校 \ 年度	令和元年度	令和2年度	対前年度
小学校(うち要保護数)	74 (7)	66 (3)	△8 (△4)
中学校(うち要保護数)	46 (2)	45 (4)	△1 (2)
義務教育(うち要保護数)	11 (0)	11 (0)	0 (0)
合計	131 (9)	122 (7)	△9 (△2)

今後も就学児童生徒の経済的理由による就学困難者の把握に努め、認定に漏れのないよう対応願います。また部活動費等の援助も検討し、他の児童生徒と隔たりなく、安心して学校生活を送れる環境づくりに努めていただきたい。

- ③ 学校支援員の活動状況では、次のような雇用状況である。 (単位:人)

学校 \ 年度	令和元年度	令和2年度	対前年度
小学校	24	23	△1
中学校	9	9	0
義務教育学校	4	4	0
合計	37	36	△1

小中学校の支援員には、特別支援、発達障害や学習が劣る児童の補助業務を担当する学校支援委員36人のほか、パソコン操作、ネット通信でのモラル指導、各学校のホームページ更新などを行う情報支援員と音楽学習を支援する音楽支援員がいることを確認した。いずれも他市町に引けをとらない充実したスタッフが揃っていることが確認でき、大変心強く感じます。

- ④ 土肥小中一貫校の運営状況について、令和3年1月15日現在の生徒数は次のとおりである。

(単位:人)

学部	学年組	令和元年度 (特別教室含む)	令和2年度
初等部	1年	14	11
	2年	12	13
	3年	9	11
	4年	10	10
中等部	5年	23	10
	6年	12	23
	7年	16	11
高等部	8年	12	15
	9年	18	12
特別支援学級			2
合計		126	118

単に学校教育だけの範疇を超え、ふるさとを大切にすることを育てることに重点をおき、

上級生を下級生が手本とし、憧れる状況を土肥の伝統にすること等に取り組んでいる。また、上級生はリーダーとして自覚が芽生え、下級生は規範意識や思いやりが育ち、良い影響が表れてきているとのこと。土肥を大切にすゝる気持ち、活性化させるためのアイデアに驚いたという保護者の意見も頂いている。またPTAや地域団体との連携もとれており、総会や授業参観会にはほとんど参加できているとのこと。確かな学力の定着を図るため、TTを行つての個別指導、ICT機器の活用、電子黒板の活用をしている。過疎化による小中一貫校の教育成果は、全国的にも注目されており、視察等の希望も多いことから、伊豆市ブランド力向上の一助にもなる。今後更に個々の特性を育む取り組みにより、他の模範となる教育現場となるよう大きく羽ばたいていただきたい。地域に愛され、地域密着型の学校となり、地域のリーダーとなる人材を輩出する礎を築きながら、こども園園児や伊豆総合高校生徒たちとの地域交流にも力をそそぐことに期待します。

- ⑤ 各委員・相談員の活動について、スクールソーシャルワーカー（SSW）は、子どもを取り巻く環境の改善を図り、子どもが抱える問題を解決するため専門員3名を任用している。特別支援巡回相談員は、特別な支援を必要とする児童生徒の就学前後の教育支援を行う。学習支援教室指導員は、現在2人で不登校などの理由により、長期にわたり欠席している児童生徒に対する学校外で学習支援を行い、学力の補充や学校生活復帰への指導を行っている。伊豆市が独自で行っている特別支援コーディネーター1名は、特別な支援を必要とする園児児童生徒の就学前後の教育支援とこども園・学校・福祉施設等との連絡調整を行っている。いじめ問題調査審議会（5名）は、いじめ防止対策法に基づきいじめ防止等のための対策に関することや重大事態に関することを調査審議していることを確認した。就学支援委員会は、障害のある児童生徒について、適切に就学に関する支援を行うための審議機関として15名の委員で組織し、就学支援に必要な諸問題の調査及び研究も行っている。
- ⑥ 市内いじめの重篤なケースの報告はないが、軽微なものについてもカウントするようになり、特に冷やかす・からかいのいじめが毎年多くなっている。いじめ発見のきっかけとしては、アンケート調査によるものが多く発見されるようになってきている。またインターネットやSNSによるいじめも増加しており、人権教育や相手を思いやる心を育てる指導を継続していただきたい。家庭の状況については、民生児童委員、こども課、社会福祉協議会、地域などでケースバイケースでの解決の道を模索して頂きたい。
- ⑦ 教職員の健康管理状況では、令和2年度の定期健康診断結果について、新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は、検診日が例年よりも遅くなり、結果がまだ出ていない状況であると報告を受けた。ストレスチェックは、市立学校の教職員163人が受診し、9人の高ストレス者との診断結果であった。
- ⑧ 通学距離が2キロメートルを超える小中学生の保護者に対して通学補助金を交付している。本年度の補助対象者は小学生保護者399名、中学生保護者356名、義務教育学校（小）27名、義務教育学校（中）16名で、近隣他市町にはない手厚い支援制度である。

- ⑨ 新中学校建設の進捗状況については、建設地は日向に決まり、今年度中に基本設計を策定する。令和3年度には実施設計策定していく。新型コロナウイルスの状況を見ながら、保護者や地元地区への説明会を行っていくとのこと。合併特例債を活用するためには、遅れることが許されない厳しい状況ではあるが、伊豆市のシンボルとなり、子ども達がやりたい勉強や部活をのびのびとできる新中学校の予定どおりの開校を希望します。

(2) 社会教育課

- ① 文学のふるさと事業は、湯ヶ島ゆかりの井上靖の作品の感想文、風景画のコンクールやイベントを開催し、地域の潜在的な魅力を再認識するとともに、文学の郷「湯ヶ島」を構築すべく、地域活性化に文学を活用した支援を行っている。本年度のあすなる忌は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。上の家は、地元主導による利活用を推進するため、観光協会天城支部が建物を借り受け、活用を図る。文学の郷づくり活動支援業務委託として1,000千円を計上しており、「井上靖ふるさと会」と井上靖資料館の管理と文学の郷づくり支援を委託している。文学の郷構想は長年のメイン政策であり、湯ヶ島地区地域づくり協議会、井上靖ふるさと会、あすなる会、観光協会、井上靖文学館、市が連携して事業展開している。小中の学校教育の場と共に、住民が気軽に参画できるイベントを通じ、伊豆市ブランドの代表ツールとして市内外に発展していくことに期待します。
- ② 文化財保護事業は、地元で古くから伝わる文書などを整理することで、往時の習俗や生活を洗い出し、郷土史資料の一助とするもので、文化財行政にかかわる事項の審議、郷土資料の整理・収集、地元文化財の活用に努めている。文化財保護審議会は、14名で文化財に関する行政案件の審議等を行っている。今年度、出土品整理業務と無形民俗文化財映像化の委託は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。
- ③ 社会体育振興事業は、修善寺ウォーキング、運動能力向上委員会、パラリンピック競技体験会（ボッチャー）、静岡県市町対抗駅伝競走大会への出場への支援を行っている。また市駅伝大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。体育協会に委託するスポーツ事業の男女バレーボール、地区対抗ソフトボール大会等も新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。感染が落ち着いたころに開催した修善寺ウォーキングは24人が参加、運動能力向上委員会は15人、パラリンピック競技体験（ボッチャー）には22人がそれぞれ参加していただいたとのこと。市町対抗駅伝は、伊豆市は練習を積めず順位が振るわなかったが、一方で以前伊豆市代表として走った児童が大学生になり今年の箱根駅伝で走ったという明るいニュースもあった。来年は伊豆市の代表として走る誇りと一つでも順位を上げるという目標をもち、選手それぞれが互いに助け合う絆を育むチーム作りに時間をさき、ぜひとも良い成績をあげられよう期待します。
- ④ 教育委員会が所管する指定管理者の指定管理施設は、狩野川記念公園、狩野ドーム、中伊豆室内プールの3施設となる。概ね管理運営は良好である。

指定管理施設	指定管理者	指定管理料	支払方法
狩野川記念公園	㈱サンアメニティ	10,850千円/年	月払い
狩野ドーム・狩野グラウンド	伊豆市スポーツ協会	9,404千円/年	
中伊豆室内プール	㈲伊豆スイムサポート	18,000千円/年	

- ⑤ 美術館建設推進事業では、本年度は、昨年度繰り越された美術館構想検討業務委託費（繰越明許 11,000 千円）による建設地選定と用地調査と建設費、維持管理費、運営の体制づくり等、実行可能性や採算性調査などを含めた事業性評価を行う予定であったが、コロナ禍での観光客の激減により調査不適となった。調査については、来年度行うこととなった。市民をはじめ、多くの人が入館する美術館を目指すため、市所有の美術品をまず市民に見てもらおう事業を新たに模索すると共に、縮小した形での美術館建設も視野に入れて検討していただきたい。
- ⑥ 学校・家庭・地域連携協力推進事業は、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもたちを育む環境づくりを推進するため、子育て世代の親を積極的に支援することを目的としている。日ごろからストレスを溜めている母親や父親の悩みに少しでも寄り添い和らげるよう家庭教育講座を7回開催し、108人の参加があったとのこと。また家庭教育支援員の質の強化を図るため、県主催の研修に参加させている。この事業により、諸問題に対応できる体制を整え、市内では親による児童虐待や子育てうつ、DV等の事件が起こらないよう希望します。また、福祉部門とのコラボも検討していただきたい。
- ⑦ 図書館（市内合計）の来館者数及び図書の貸出し状況（4～12月分比較）は、次のとおりとなっている。

項目	来館者数	貸出冊数
令和2年度	37,209人	87,745冊
令和元年度	64,899人	103,470冊
増減	△27,590人	△15,725冊
前年比	57.3%	84.8%

新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は、臨時休館の対応をとったり、管内利用の時間を制限したり、閲覧席の利用制限、閲覧用パソコンの利用制限、マスク着用、人と人の距離の確保等様々な方法を考え、来館者が安心して利用できるよう努めたとのこと。確かに、来館者は半分近くの減ではあるが、貸し出した本の数は15パーセントの減に留まっている。これまでの来館者増となる各種の講座やイベントが、今年は開催が難しく中止や縮小となったものもあったと思うが、この経験を活かし、これからの来館者数の増に繋がる新たな試みに挑戦し、年代を問わず市民が気兼ねなく、楽しく利用できる図書館であり続けていただきたい。また4つの図書館のあり方を検討し、理想的な伊豆市図書館となることに期待します。

- ① 図書館講座・教室では、本年度開催の48講座に参加人数1,221人(11月末現在)を数える。「出前おはなし会」には、子ども向けに464人、大人向けに139人、合計603人の

参加があった。その他に「ポップアップしかけ絵本展」に76人、「ミニ博物館とブックビューフェ」に97人、プログラミング教室（2回）に43人、文学講座「江戸時代の富士登山」に16人の参加があった。これから「チャリティリサイクル」と「春のおはなし会」も予定している。コロナ禍での講座で制限等あったにもかかわらず、参加者数は、充実していたと思われる。図書館講座の充実を図り、コロナ終息後の利用者の増加を大いに期待します。まちづくりの拠点として、交流、語り合い、知の活力の源となる元気な図書館施設となる事を切に希望します。

- ② ブックスタート事業は、赤ちゃんがいる家庭に図書館から絵本を贈り、絵本を通じて家族が心触れ合う時間をもってもらい、読書や読み聞かせの大切さを知ってもらうことを目的としている。配布は7ヶ月児健康相談日の会場で、図書館職員から保護者と赤ちゃんに絵本の読み聞かせの大切さを伝えながら直接手渡しているのだが、新型コロナウイルス感染症対策で図書館での引き渡しとしたとのこと。配布状況は次のとおりとなる。

年 度	対象者	配布人数	配布率
平成30年度	118人	107人	90.7%
令和元年度	117人	103人	88.0%
令和2年度（12月末まで）	68人	31人	45.6%

例年よりも未受領者が多いため、郵送で対応する予定とのこと。本の大切さを感じてもらい、子どもと一緒に図書館を利用する機会を増やしていただくよう希望します。